

思うたちいかん。早う寝るぞね

故郷の吾北村(現いの町)を離れ、野市町のみどり野団地に移り住んだのはご主人を亡くした30年ほど前。子どものいない数衛さんは、一番頼りにしていたご主人の弟さん夫婦と一緒に住むことになりました。曲がったことが嫌いで一本気な数衛さんは、弟さんが亡くなった後、義理の妹・文子さんと2人の生活の中でも、辛いことや嫌なことがあると、思ったたちいかん。もう寝る」と、さっさと寝床へ。くよくよしないのが身上で、いつも翌朝には何事もなかったような顔をされていたそうです。



森脇 数衛さん (野市町)
明治37年4月20日生まれ



女性長寿の横綱は、香南市で最高齢の森脇数衛さん104歳。市内の病院に入院してからの一番の楽しみは、毎日のように来てくれる義理の妹の文子さん(77歳)とのひとときです。

「細かいことにはこだわらないのが、ねえさんの持ち前だと言います。」

また、長年農業を営んでいた数衛さんは、団地の庭でも6畳ほどの畑を耕し、季節の野菜を作ることが楽しみだったそうです。野菜はもちろん、足が弱って入院した今も好き嫌いがなく、病院の人気者です。二人の絆は強く、病院に来た文子さんをもっとおっついていき「や」と引き留める数衛さんと病院にねえさんの顔を見に行くのが生きがい」という文子さんがいます。

104歳

毎日つける日記。気がつけば80年

「お酒もたばこもやらんけん、友達とするゲートボールと料理を作ることが好きやった」と話される儀政さん。60歳から91歳まで東川老人クラブで活躍。クラブや地元などで宴会をするときは料理番として腕を振る調理場を仕切っていました。

毎日の習慣となっている日記を始めたのは、戦地から帰ってきた23歳から。たくさんある古い日記を読み返しては昔を懐かしがっています。長生きの秘訣を聞くと、何でも食べる。特に毎日の食後や薬を服用した後は、口直しに家で採れた新鮮な蜂蜜をなめ、山の水をさゆにして飲んでいました。



男性長寿の横綱は、小原儀政さん103歳。長男のお嫁さんの信さん(81歳)と実の親子のように仲良く、香我美町奥西川の自宅でごさされています。

ました。特に、巻き寿司とよかんは得意中の得意！近所の婦人からは師匠と呼ばれるほどの腕前で、飾り付けも紅葉や南天の葉、ハランを添えるなど味も見た目も凝っていたそうです。今年、地元公民館の敬老会へ信さんと出席。信が元気で「おるうちは、自分も元気で」とにこやかに話され、敬老会では元気に体操などに参加していました。

小原 儀政さん (香我美町)
明治38年7月19日生まれ

103歳

敬老の日を

寿ぐ

ことほ



お年寄りの知恵を借りて村づくりをしよう。1947年(昭和22年)、兵庫県の村長が始めた村づくりの集いが「敬老の日」の起源です。農閑期で気候も良い9月中旬に日を定め、敬老会は全国に広がり1966年(昭和41年)、「敬老の日」は国民の祝日に定められました。



9月13日(土)のいちふれあいセンターで、戦前・戦後の激動の時代を力強く歩み今日の礎というべき高齢者の中から、77歳・88歳・99歳・100歳以上の人が招待され、市主催の敬老会が開催されました。100歳を迎えた人には、内閣総理大臣からの表彰状と記念品が市長から感謝と敬意を込めて手渡されました。

まちの ご長寿

から学ぶ

地域の 敬老会

皆さんはまちの宝です。地域では9月15日の敬老の日に合わせて、それぞれの日に各地区の敬老会が開催されました。今年、以前から続いている香我美町・夜須町に加え、赤岡町・野市町でも民生委員や婦人会・老人クラブと町内会など、各種団体が協力し工夫を凝らした手作りの会で地区のご長寿を祝いました。



たいしたことは、ようせんけん。よう来てくれました!



まっこと、久しぶりじゃったねえ。またね!

